

ドーマン赤土のMくんのためのKITEBOARD講座

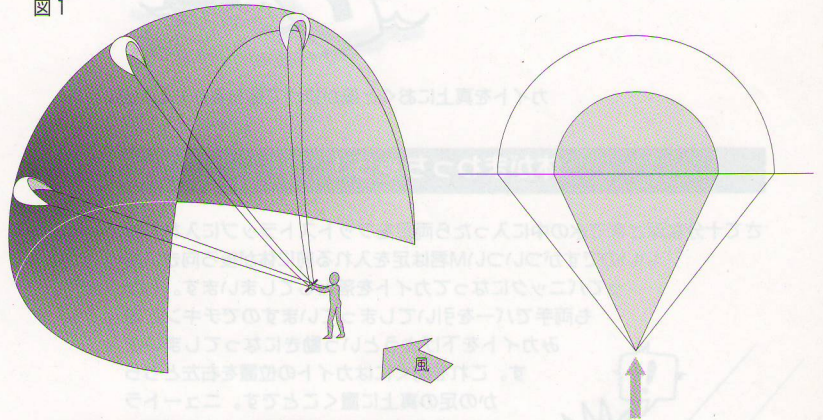
M君はカイトボードを始めて足掛け3年なのにまだたまに走れるだけでアップウィンドなどとてもできない、周りの同じ時期にカイトを始めた人たちは

もう飛んだり跳ねたりしています。周りの人たちはそんなM君を見て危なっかしくて見てられないと言います。そんなM君のための特別講座です。

カイトが落ちそうなときどうする？

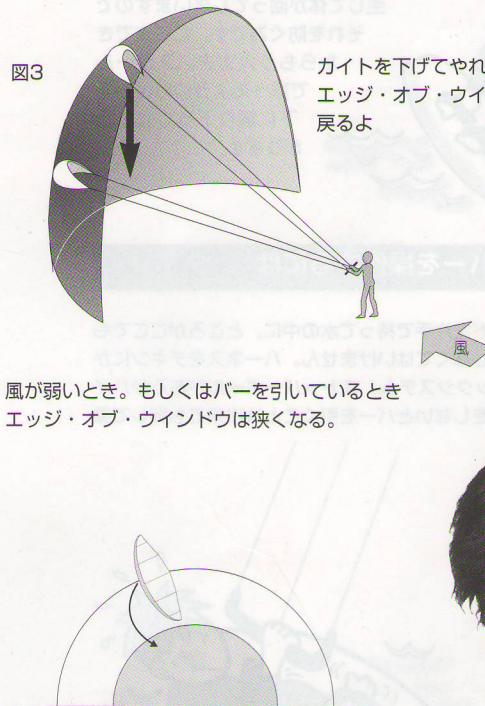
M君は小さなトラクションカイトは十分上手に操れるのになぜか大きなカイトを揚げるとすぐに落としてしまい、カイトは波にもまれラインは絡みそのラインをほぐすために大切な練習時間が費やされ、あっという間に時間が過ぎてしまいます。その間にみんなは楽しそうに飛んだり回ったりしているのに。何が問題なのでしょう？ まずエッジオブウィンドウは広がったり狭まったり風の強弱で変わるということを頭に入れておきましょう。風が強く吹けばエッジオブウィンドウは広がり、弱くなれば狭まります(図1)。いつもの事ですが、急に風が弱くなったらM君は陸上でカイトを落とすまいと一生懸命カイトに引かれる反対方向に条件反射的に走ってしまいます。ところがこれでは風向に対するエッジオブウィンドウの角度が変わらないのでまっさらきり意味がありません。走るのであるなら風上に向かって走るべきです。そうすればカイトはパワーゾーンに近づきまた上がってくれるのです(図2)。では走らずに落ちそうなカイトを揚げてやるにはどうしたらよいでしょう？それは図3のように逆にカイトを下に向けてやればエッジオブウィンドウは下のほうが広いため また風が入り揚がってくれるのです。

図1



風が十分あるとき。もしくはバーを引いていないときエッジ・オブ・ウィンドウは広くなる。

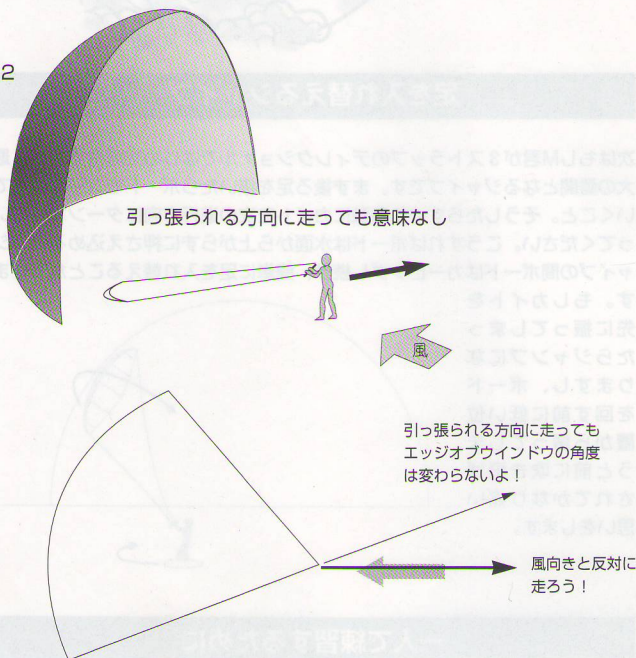
図3



カイトを下げてやればエッジ・オブ・ウィンドウに戻るよ

風が弱いとき。もしくはバーを引いているときエッジ・オブ・ウィンドウは狭くなる。

図2



引っ張られる方向に走っても意味なし

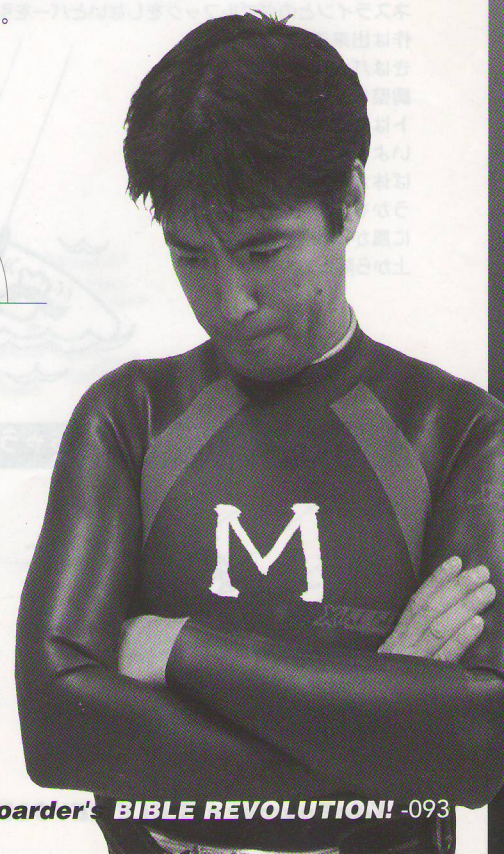
引っ張られる方向に走ってもエッジオブウィンドウの角度は変わらないよ!

風向きと反対に走ろう!

チキンループの勘違い

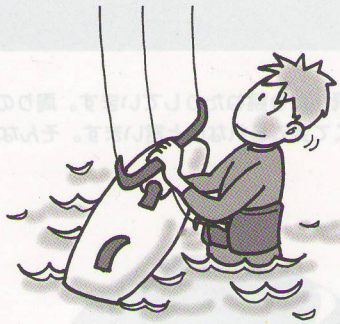
もう一つM君には致命的な勘違いがあります。M君は長年パラグライダーをやっている4ラインで操作するのにバーを引き込めばカイトの仰角(“ぎょうかく”と呼びます。パラグライダーの一部の人たちは長年間違って“げいかく”と呼んでました。)が付いてよりパワーが入りカイトが揚がると信じ込んでいました。実は4ラインカイトのチキンループだけを持って引いてあげればカイトは上に揚がります。論より証拠、風の弱い日にパワーゾーンから揚げてみてください。(風の強いときは間違ってもやらないでくださいねM君) やっと上がったときにバーを引き込めばカイトは下に下がります。といってもバックラインが緩んでいてはカイトを右に振ったり左に振ったり出来ないので軽くバーを引いておいてください。

何でできないだろう・・・



ボードリーシュをつけるときのKITEの位置

これでカイト操作が明確になったと思いますが、次の難関はリーシュを足に付けなくてはなりません。この時はカイトを真上よりややどちらかに置き、手早く付けてください。真上だと風が弱まったときに落ちてきてしまうかもしれません。少しでも横にあればカイトを振って揚力をつけて揚げてまたリーシュを取り付けられます。



カイトを真上におくと風が抜けて落ちるかもしれない

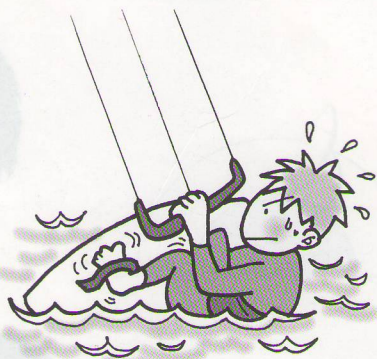
体がまわっちゃう！

さて十分な深さまで水の中に入ったら両足をフットストラップに入ればいいのですがついついM君は足を入れる前に体が後ろ向きになってパニックになってカイトを落としてしまいます。しかも両手でバーを引いてしまっていますのでチキンが緩みカイトを下げようという動きになってしまいます。これを防ぐにはカイトの位置を右左どちらかの足の真上に置くことです。ニュートラルポジションの12時方向だと先ほど言いましたように落ちやすく、右や左に2時や10時の方向だとモーメントが生じて体が回ってしまいますのでそれを防ぐ為です。ここまでできたらもう大丈夫。スクールで習ったようにカイトを下に振り下ろし立ち上がります。



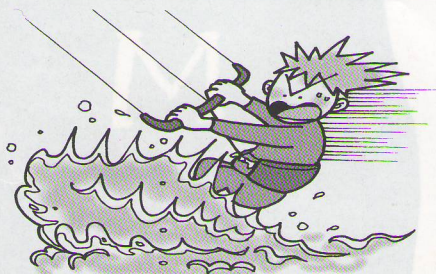
片手でバーを操作するには

さてリーシュを着いたらボードを片手で持って水の中に。ところがここでも大問題。片手でカイトを操作しなくてはなりません。ハーネスをチキンにかけていると4ラインの場合ロックシステム、ストッパーボールがあるかハイネスラインとのダブルフックをしないとバーを引くことは出来ても押して操作は出来ません。そのときはバーを持ち替えて微調整してください。カイトは絶対に真上に置かないように。風が強く入れれば体が飛んでいってしまうかもしれませんし、急に風が弱まればカイトが上から降ってきます。



横滑りしちゃう

ただ横乗りスポーツが初めてのM君は横滑りするだけで前に走っていきません。このときは前足を伸ばすと案外すんなり走っていきます。



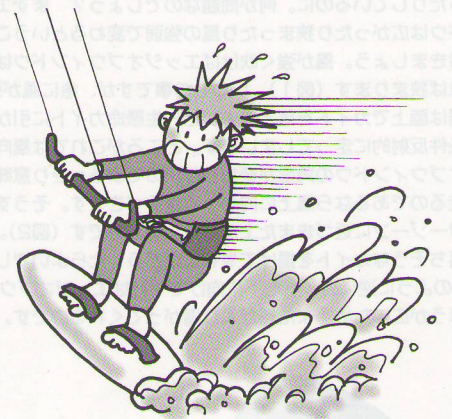
ここまで行けばもうM君ではなくなるのですがこの後カイトを楽しむためのいくつか難関があります。

アップがとれない！

一つはアップウィンド。これはM君が考えている以上にオーバーで乗らないと上れません。またスタートのときと同じで前足を伸ばして体重をかけるのが大事です。

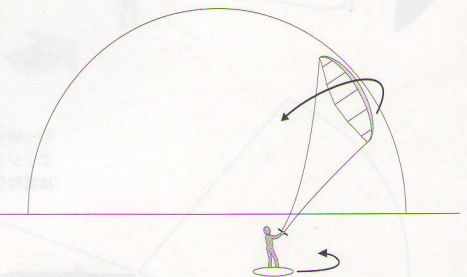
爆走しないために

この過程でたぶん経験するのが“爆走”です。このときは度胸を決めて更に低い位置にカイトを置かひたすら風上に上らせようとしてください。エッジを緩めてカイトを真上に置けば止まりますが真上にもっていくのを急激にやると吹き飛ばされます。上級者は風下へボードを走らせてスピードを緩めたりもします。どうしてそうなるかは話すとも長くなるのでやめときます。ベクトルで証明できます。



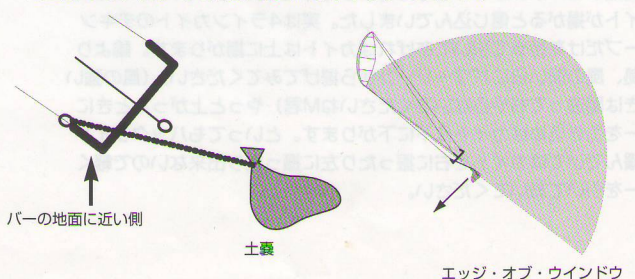
足を入れ替えるジャイブ

次はもしM君が3ストラップのディレクショナルではじめた場合ですが、最大の難関となるジャイブです。まず後ろ足を抜いたらボードをターンさせていくこと。そうしたらすぐに急激にカイトを次の進行方向にターンさせてください。こうすればボードは水面から上がらずに押さえ込めるのでジャイブの間ボードはカービングし続け、簡単に足を入れ替えることができます。もしカイトを先に振ってしまつたらジャンプになりますし、ボードを回す前に低い位置から振ってしまうと前に吹き飛ばされてかなり痛い思いをします。



一人で練習するために

カイトは通常通りセッティングします。土嚢を砂に埋めておきそれにリーシュをつけます。リーシュコードの反対側をバーの地面に近い側に引っかけます。カイトをエッジ・オブ・ウインドウに置くとそのまま安定します。カイトを降ろすときは土嚢のある場所にゆっくり降ろし、地面につけます。上げたときと同じようにバーの地面に近い方の側にリーシュをつけた土嚢にもリーシュコードの反対側をつなげます。カイトはエッジ・オブ・ウインドウに止まっていますので自分で歩いてキャッチできます。

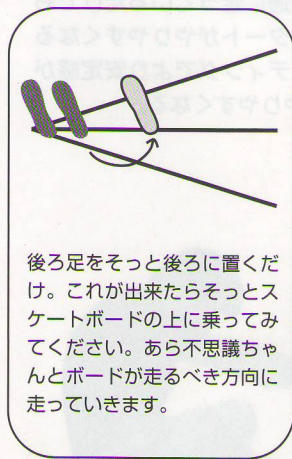


M君は何か走ることが出来るようになってめでたしめでたしなのですが何しろ横乗り経験が全く無いのでやれへっぴり腰だの無様だのと周りから言われてしまいます。ウィンドやスノーボードの経験のある人はずいぶんかっこよく乗っているのですが。そこで基本のフォームの確認を仕事で忙しいM君のために陸上で行います。そうすれば既にイメージを体で体験しているので海に出たときにそのままのイメージで練習すればいいのです。



1点で止めると両足をそろえて立ったときに真ん中にぶら下がっていないと体が回転します。

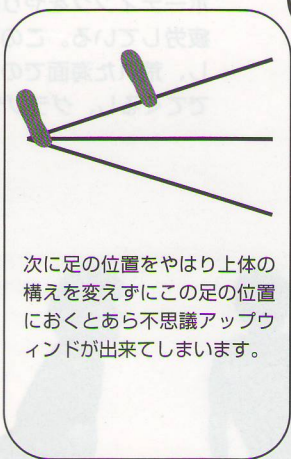
まずバーを梁から吊り下げ走っている状態のエッジオブウィンドウの位置に立ちます。そうしたらカイトに引っ張られるちょうど反対方向に体も腕もまっすぐにして寄りかかります。こうすると胸も腰もカイトにまっすぐ向いた形になります。M君はいつもカイトに引っ張られないようにと後ろ足に力が入って後ろの肩が下がって斜めに引いている形になっているのです。



後ろ足をそっと後ろに置ただけ。これが出来たらそっとスケートボードの上に乗ってください。あら不思議ちゃんとボードが走るべき方向に走っていきます。



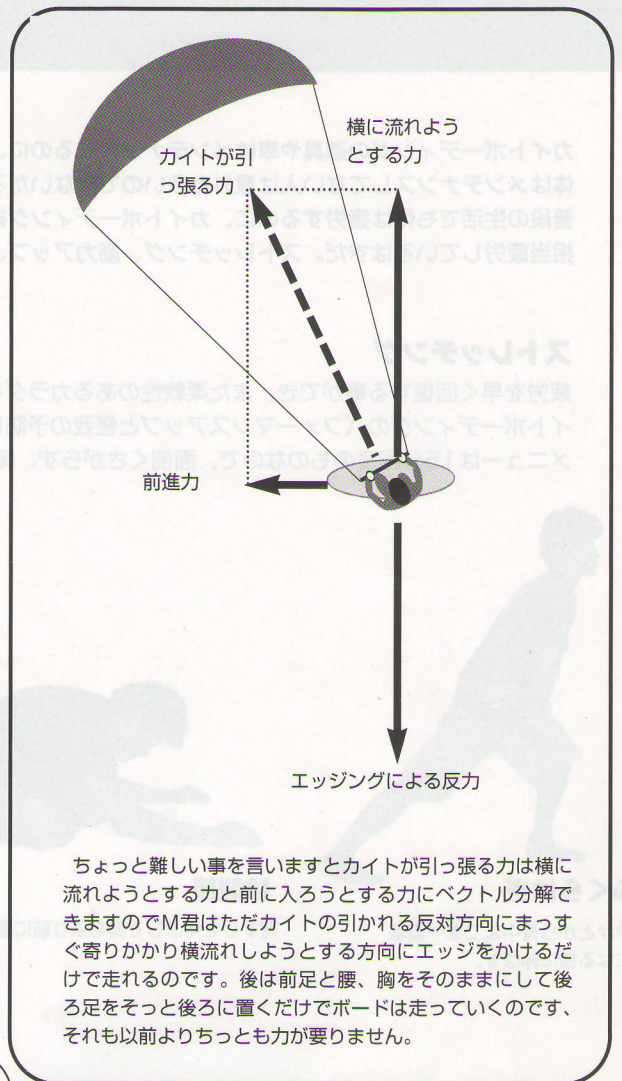
次は後ろ足を手前の線の上に置いてください。ここが風下へ行く方向です。上体の形は変えないでM君!!



次に足の位置をやはり上体の構えを変えずにこの足の位置におくとあら不思議アップウィンドが出来てしまいます。

この方法でこの先トーサイドのフォームやブラインドのフォームも確認できます。海に出るだけの方がよくなる唯一の方法ではありません。正しいイメージを何度も何度も陸上でも繰り返し海で試してみればいいのです。そうすれば少ない練習時間で効率よくよくなる事が出来ます。M君頑張て!!

さてここまで理解できたでしょうか?後は風の良い時を選んで練習してみてください。必ず乗れる人と一緒にやってください。一人でコツ練っていきなりみんなに見せてやろうなんて考えは怪我の基です。みんなで助け合って上達しましょう。カイトはちゃんと理屈が分ればとっても簡単です。



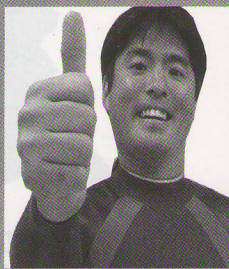
ちょっと難しい事を言いますとカイトが引っ張る力は横に流れようとする力と前に入ろうとする力にベクトル分解できますのでM君はただカイトの引かれる反対方向にまっすぐ寄りかかり横流れしようとする方向にエッジをかけるだけで走れるのです。後は前足と腰、胸をそのままにして後ろ足をそっと後ろに置くだけでボードは走っていくのです、それも以前よりちょっと力も要りません。



ドーマン赤土

SLINGSHOT輸入代理元のレゼール代表SHOP&SCHOOLレゼールサーフ代表。最近ではオーストラリアMAMBOの大会でシニア部門2位の実績を持つ。

その昔ウィンドの大会でマントを着て出場して以来、「赤土マン」、あるいは「ドーマン」の愛称で皆に親しまれる。



Mくん

本誌編集委員。カイトを始め3年になるがいっこうに上達しない。ドーマン先生には「もっとKITEBOARDER'S BIBLEをちゃんと読みなさい!」と怒られる。しかし今回この企画で目からうろこが落ちた。今度読者の皆さんと海で会うときは...